

29. 骨シンチ剤  $^{99m}\text{Tc}$ -ハイドロオキシ MDP と  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP の比較 ..... 小野 慶他...624  
 30. 骨シンチグラムの delay time の検討 (MDP と HMDP の比較) ..... 古賀 靖他...624  
 31. 骨シンチグラフィー時に描出される腎イメージについて  
 　——その後の症例についてのまとめ—— ..... 柳沢 宗利他...625

## 演題

### 1. RIA による血清ケノデオキシコール酸 (CDCA) 測定の検討

前田 貞美 小野寺よう子 佐々木康人  
 千田 麗子 染谷 一彦

(聖マリアンナ医大・3内)

胆汁酸ケノデオキシコール酸 CDCA の RIA 測定系を作製し、検討したので報告する。

抗体は、CDCA-BSA 結合物を Freund complete adjuvantと共にウサギ皮下に反復注射してえた。

測定法は、標識物質に  $^3\text{H}$ -CDCA, B-F 分離にチャコールを用い、42°C 1時間インキュベーションし、CDCA 1~400  $\mu\text{g}/\text{dl}$  にて標準曲線を求めた。

基礎的検討：1) 交叉試験、抱合型 CDCA と最高41%だった以外、他の6種の胆汁酸との交叉は4%以下であった。2) 薬剤等による干渉、ステロイドホルモン、ビリルビン、活性 V.B<sub>1</sub> に高かったが、稀釈により除外できた。3) 稀釈試験、20倍以上の稀釈により直線性がえられたため、患者血清を100倍稀釈して測定した。4) 回収率、78.8~117%，平均 91.1%。5) 二重測定による測定内誤差は 6.5~11.8% (C.V.)、平均 8.9%、測定間誤差は 14.2% であった。

臨床的検討：正常者  $104 \pm 82.8 \mu\text{g}/\text{dl}$  ( $n=51$ )、より正常値は 270 以下とした。肝硬変症例を GOT 40単位以下、100未満、100以上の3群に分類、それぞれ  $4,438 \pm 3,313$  ( $n=13$ )、 $4,663 \pm 4,543$  (19)、 $5,610 \pm 4,848$  (5) と差はなかったが、慢性活動性肝炎の  $2,051 \pm 2,277$  (12) に比べ高かった。急性肝炎ピーク時  $13,588 \pm 7,214$  (12)、肝障害を認めない胆石症  $53.4 \pm 30.5$  (15) であった。急性肝炎経過中、CDCA はトランサミナーゼにおくれて上昇し、早期に正常化する傾向を認めた。従来の肝機能検査とは、各疾患共相関しなかった。高速液体クロマトグラフィーによる測定値とは  $r=0.85$  ( $n=108$ ) とよく相関した ( $p<0.01$ )。

### 2. 「SPAC $\alpha$ -feto kit」の基礎的および臨床的検討

高原 淑子 佐々木由三 佐藤 仁政  
 石橋 章彦 正木 英一 与那原良夫  
 山下 昌次 近藤 誠

(国立東二病院・核医学センター)

SPAC  $\alpha$ -feto kit による血中 AFP 値の測定を行い、次のような成績が得られた。

インキュベーション時間と温度の変化は、高濃度血清において時間の延長、温度の上昇に伴い低値を示す傾向がみられた。

同一ロットによる再現性の変動係数は、8.19%，2.73%，5.63%，異ロット間の再現性の変動係数は、8.97%，7.97%，2.52% であった。

2種の血清について、1/2, 1/4, 1/8 と希釈した結果、両者ともほぼ一直線上にあった。

2種の血清に標準液を添加回収を行った結果、その平均変動係数は、99.08%，100.9% と良好であった。

SPAC  $\alpha$ -feto kit と  $\alpha$ -feto “栄研”との相関係数は 0.948、その回帰直線式は、 $Y=1.65X-2.23$  で本キットによる測定値の方が高値をとる傾向にあった。

本法による健常者の AFP 値は、 $1.61 \pm 1.31 \text{ ng}/\text{ml}$  だった。また原発性肝細胞癌は、14例で、その範囲は 20.4~10,700  $\text{ng}/\text{ml}$  と高値を示し、急性肝炎では 0.6~498.2  $\text{ng}/\text{ml}$ 、慢性肝炎では 0.2~221.5  $\text{ng}/\text{ml}$ 、肝硬変症では 0.9~324.1  $\text{ng}/\text{ml}$ 、転移性肝癌では 1.9~95.8  $\text{ng}/\text{ml}$ 、妊娠前期では 0.23~42.7  $\text{ng}/\text{ml}$ 、妊娠後期では 97.5~400.6  $\text{ng}/\text{ml}$  であった。

### 3. SPAC $\alpha$ -フェト RIA の基礎的検討と臨床応用について

大塚 英司 市原 真 足立 信一

(大和市立病院・アイソトープ室)

$\alpha$ -Fetoprotein の測定法は、現在 Radioimmunoassay